匠の技の可視化について

戸田市教育委員会

匠の技の可視化について

現状と課題

業務量の増大により教職員の研修時間の確保が困難であること、大量採用・大量退職などに直面している現状において、**教職員の指導力向上は喫緊の課題**

優れた教職員の指導技術 **“匠の技”** は、**その教師の経験や感覚に基づく属人的なスキル**になりやすく、**伝承や普及が困難**

脱・経験と勘と気合

解決の方向性

優れた教職員の技術を**可視化**、**定量化**し、**調査・分析・研究**

他の教職員へ効果的な伝承

こどもたちの学びの質の向上

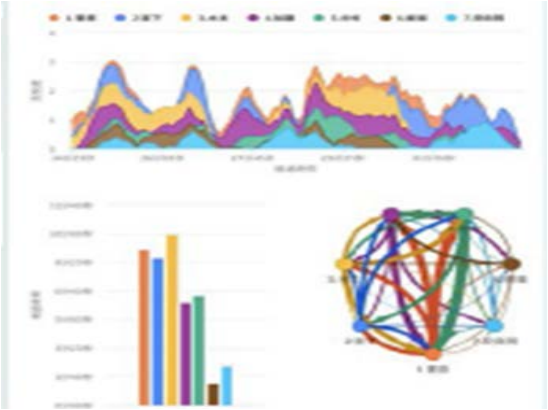
これまでの実証研究

2021年度、市内5校において、ハイラブル(社)のたまご型レーダーを活用し、授業中の**”こどもたちの発話”**と**”教師の指導”**との関係を分析した結果、多くのグループで教師が支援に入った後にこどもたちの発話量が増える傾向にあることがデータから分かった。

～ハイラブルのたまご形レコーダーとは？～

①話し合いの可視化
- 会話のやりとり（誰とどの程度のやりとりか）
- 発話量と時間変化

②データ分析
- 話し合いの様子をグラフ化
- グループ分析（メンバーごとの話し合いの傾向等）
- 個人分析（発話の質的向上、メタ認知の育成）



【発話のパターンから行動解釈が可能】

例）　発話量が少ない割に重なり量が多い
　⇒相づちで他者の発話をサポートしているのか。
例）　発話量が多く重なり量が多い
　⇒よく話し、よく割り込む主体的な学習者なのか。

実証研究の振り返り

成果

以下のような事例が見られた。
子供たちが、**自らの発話を振り返り**、次の活動に向けて**自分の目標を見つける**ことができる。
教師にとっては、録音を聞き返すことで、**こどもたちの評価につなげる**ことができる。

課題

座席位置を適切に設定しておかないと、発話量のデータを正確に記録できず、**データの正確性に疑問が残る場合**があった。
こどもたちが**自由に動き回る授業では活用が難しかった**。
教師の発話記録の取得は困難だった。

匠の技の可視化の更なる推進に向けて

- R4.10月～R5.3月　未来の学びの実現に向けてクラウドファンディングを実施
- R5.7月～　以下の観点から、授業中における”こどもたちの発話”と”教師の指導”との関係をより深く詳細に分析

  可視化・定量化 ＞ データ分析
- R6. 4月～　成果まとめ
  子どもの学びに影響を与える優れた教師の”技”を解明

目標額：約500万円

データ収集等に係る機材調達費
データ分析等に係る経費など

①発話量（発話時間）と学びとの関係の分析

例）児童生徒の発話量が多いほど（発話時間が長いほど）、学力や非認知的（社会情緒的）スキルによい影響があるのではないか。

②児童生徒の話合いと教師の指導との関係の分析

例）児童生徒の話合いが活発化した場合、教師の声かけ等がきっかけとなっている場合があるのではないか。

例）児童生徒の話合いの活発さは、教師の学級経営の在り方を示す県学調の質問紙項目との相関関係が見られるのではないか。